

長野県立 こども病院だより

No.23
平成24年8月3日発行



日本医療機能評価機構
当院は日本医療評価
機構の認定病院です

長野県立こども病院理念

わたし達は、未来を担う子ども達のために、質が高く、安全な医療を行います。

contents

医療相談室紹介	1
「たんぽぽのおうち」開設10周年を迎えて	1
在宅医療支援の取り組み	2
ハワイ大学医学部研修	3
セブルク・オリガ医師紹介	4
後期研修医紹介	4
ボランティアサークル紹介	5
病棟紹介(外来)	6
平成24年度新人看護師研修	6
病棟の野菜と花畑	7
七夕まつりを開催しました	7
公衆無線LANがご利用できます	7

医療相談室紹介

医療相談室 赤羽 貞子

相談時間 月・水・金曜日 9:30~16:30

今年の4月に、医療相談室が開設されました。この部屋の役割は、患者さん・ご家族と病院の職員がありのままの気持ちで向き合うことができることを支援することです。

病院という場所では、患者さん・ご家族も病院の職員も平常心ではいられない日常生活が続いています。そんな中で、お互いの間にずれが生じることはあります。そんな時、患者さん・ご家族からは胸のうちをお話しいただけるように、職員からは正しくわかりやすくお話しができるように支援し両者の橋渡しをする役割を持つのが「医療相談室」です。

6月末までに、34件の相談がありました。その内容は、千差万別で病院の診療体制や看護に対する要望もありましたが、いろいろな提案、ご意見も多くありました。また、職員からの相談も何件もありました。

看護師としてお世話になっていたこども病院へ4年ぶりに戻って来ました。ここで再び働かせていただけることがうれしくて参りましたが、3ヶ月たっても私自身が迷いの中にいます。そんな心細い私に力を与えてくださ

たのが、ボランティアの皆様や以前からの顔見知りの患者さん、病院職員です。そして新たに知り合った皆様のおかげで相談室が相談室らしく整ってまいりました。

「孝なるかな惟れ孝」という言葉のとおり、宇宙の持っている力で生かされ、人との出会いがあり今の自分の仕事があると感じています。今、人のつながりのありがたさをしみじみ感じて仕事をさせていただいています。

こども病院に関係するすべての方々が、思い煩うことなく自分の持てる力が発揮できるように、患者さんが本当に納得のいく医療が受けられるようにと願って一生懸命働く所存です。

何かが起きたときだけではなく、つらいこと悲しいこと、時にはうれしいこと、「こんな風にしたら良い」という提案など何でも話しに来ていただけるようドアを開けて待っています。



相談の様子

「たんぽぽのおうち」開設10周年を迎えて

特定非営利活動法人あづみのファミリーハウス
代表理事 上條 孝子



式典会食の様子

2002年4月に長期入院患者家族滞在施設「たんぽぽのおうち」がオープンし今年で10年が経ちました。去る6月30日こども病院北棟会議室において、「10周年記念の会」を開催させていただきました。当日はお忙しい中、原

田病院長をはじめとした病院関係者様、日頃よりたんぽぽのおうちで活動されているボランティアの皆様及び当法人の会員の皆様にご参加いただき、ささやかな昼食会とボランティアの皆様の表彰をさせていただきました。振り返ってみますとあつという間の10年でしたが、皆様のご協力のもと患者家族様に必要とされた10年であったと思います。10年という一つの節目を迎えた今、引き続き安らぎを提供出来るハウスでありたいと思います。

平成20年7月から平成22年8月まで、医療や療育の環境整備・病診連携を目的に、中信松本病院・信州大学病院・開業医の小児科医、こども病院の小児科医と看護師・MSWが参加し、1回/月に“在宅人工呼吸器使用患者の支援について考える会”を開催していました。定例会において訪問薬剤管理指導という方策がある事を知り、在宅支援のひとつの策として導入したいと常々思っていました。平成23年4月より、長期入院児のデータ管理以外に、実際に具体的な在宅支援活動を通して在宅移行をより推進しようと在宅医療支援チーム会が発足されました。訪問薬剤管理指導の導入にあたり、在宅医療支援チームメンバーに薬局のスタッフを加えた事で、訪問薬剤管理指導の仕組みを学び、長野県薬剤師会の在宅移行の取り組みや調剤薬局の様子など、最新情報を知ることができ、平成23年6月よりスムーズに導入する事ができました。

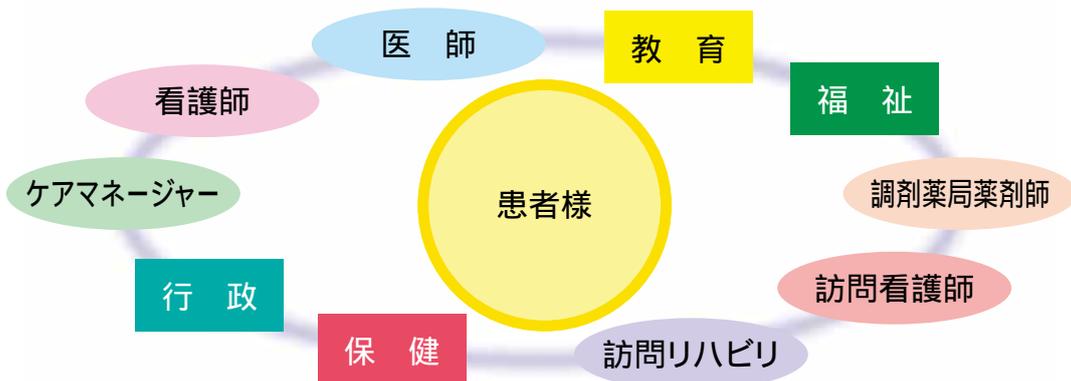
訪問薬剤を導入する目的は、“調剤薬局の薬剤師が訪問し服薬指導を行う事で、服薬支援・安全管理を行う事ができ、院外処方の推進”としました。期待する効果として、患者様側は処方の待ち時間なく帰宅でき、自宅でゆっくり過ごせたり、学校やデイサービスを休むことなく利用できるため、こども達や家族のQOLの向上に繋がるのではないかと考え、また病院側は、処方を通じ調剤薬局と病院がより連携を深める事ができると考えました。

訪問薬剤管理指導を推進したい対象は、人工呼吸器装着や医療的ケアを要し介護が必要な方とし、一人一人患者支援地域連携室の看護師が患者様のご家族に声をかけ、システムを説明し了承が得られれば、訪問薬剤

管理届を提出している薬局を家族が選び、薬剤情報に関しては薬局担当者に依頼し調剤薬局と調整しました。指示書は主治医に依頼し、次回外来に間に合うように準備を整えました。現在(平成24年5月)声をかけた患者様は23人、内訪問薬剤管理指導を実施している患者様は11名、実施回数は延べ40回となっています。調剤薬局からは毎回訪問時の様子など報告書が提出され、細やかな観点からご家族に寄り添っていただいていると感じています。体験したご家族からは、「受診後疲れて栄養剤等運びだすのがおっくうだったけど、部屋まで運んでもらえて、腕や腰が楽です。」「集中して内服薬を整理したいのに、吸引したりで作業が中断すると、どこまでやったのかわからなくなって時間ばかりかかっている、内服薬を時間毎にまとめる作業を手伝ってもらえて嬉しかった。」などと利用して良かったという声がありました。今後在宅医療チームは、案内のポスターを作成し病棟や外来に掲示し、周知の拡大を図っていきます。

今後も、地域の薬剤師の皆様と協力し、人工呼吸器の加湿器用の注射用蒸留水や在宅療養指導管理料で提供される在宅用の消耗物品の配達ができるようなしくみの検討や長野県下の会営の無菌調剤室の設営の予定があるため、中心静脈栄養の高カロリー輸液の院外処方への取り組みを行い、在宅支援の輪を広げていきたいと思っています。また、在宅支援を行っている関係者の皆様から、小児疾患や医療的ケアなどの学習会の要望も多数寄せられているため、連携を深めていくためにも学習会などの計画もしていきたいと思っています。

チームを組んで在宅支援に取り組みしましょう





研修センターの前にて 著者:前列右から2人目

私は、5年ほど教育委員として新人看護師教育に携わってきました。年々新人看護師の状況が変わってくるのを感じていました。その背景には、看護大学や専門学校でのカリキュラムの変更により、病院で新人看護師指導にあたる先輩看護師との間にギャップがあることも一つの原因かと思えます。誰も新人看護師をどうやって指導していくのかなどの「教え方」は習ってきませんし、教えてくれません。みんなたいてい自分が教えられたように教えていくのです。しかし、自分の時とはカリキュラムが違いますから、同じように教えても同じように理解してもらえないし、なかなか成長していきません。「どうしてなんだろ...」 疑問に思いながらも、同じやり方を繰り返していきます。そうしてジレンマを抱えていくわけです。今回の研修ではそんなジレンマから少し解放され、自分の進むべき方向が見えてきたと思います。

研修内容は、成人教育理論について・成人教育の基本的考え方、シミュレーション教育についてその方法・効果・成果などを講義形式で学びました。その後、実際にシミュレーションを体験しながらシナリオの作り方を学びました。

シナリオは、一度にたくさん盛り込んでも得るものが少なく、できるだけシンプルにポイントを絞って行うのがよいのだと学びました。また、1回のシミュレーションは6~7分くらいが目安で、あまり長いとポイントがずれてしまいよくないと分かりました。具体的に誰に何をどのくらい学ばせたいのか目的を決定したら、どんなツールが必要なのか決めていきます。学ぶために何をを使うのか、シミュレーターを使用する場合どの程度のシミュレーターが必要なのか実際にシミュレーションを通して考えます。経験の中から自分で答えを見出していきますから、具体的に理解でき納得度が違いました。

シナリオが完成したら、それを効率的に進めていく方

法として「ファシリテーション」を学びました。目的をしっかりと理解し、学ばせたい方向へ状況を見ながら導いていくのがファシリテーターの役割です。そのためには、ある程度専門的知識を持った人がその役割を担う必要があるのではないかと思いました。

シナリオを実践したら振り返りを行い、自分で問題に気づくことで学びを深めていきます。これを「デブリーフィング」と言います。今回私が一番学びたかったことでした。

適切な質問(問い)をすることで問題解決に導いていくことが大切で、かなり練習が必要だと思いました。質問するためにはよくその状況(シミュレーションの)を見て判断していかなければいけません。このことは、日常の指導にも当てはまります。指導者はよく新人看護師の状況を見て、どうしてできないのか、何につまずいているのかなど把握し、そのことに自分から気付くように質問をする。質問に答えながら自分を分析し自分で考えさせ、その解決方法に向けてどうやったらできるようになるのか、自分で行動計画を立案させるように質問で導いていく、コーチングの方法と同じなんだと思いました。

「デブリーフィング」の具体的な方法として、GAS法とチームコミュニケーションを評価する4つのポイントを学びました。とにかく大切なことは、「自分たちがどのようにシミュレーションで動いたかを振り返り、自分たちで今後どのように行っていったらよいのか気づけること」だと学びました。すぐに実践で活用できる具体的な方法を学ぶことができました。

今回学んだことを実際のシミュレーションや、指導に活かせるようにトレーニングしていきたいと思います。また教育専任看護師長として、この学びを看護師全員に広めるように、日々活動していきたいと思います。



研修風景



NPO法人チェルノブイリ医療基金の招きにより、 当院で平成24年3月19日～6月15日まで 研修されたセブルク・オリガ医師をご紹介します。

私は、ベラルーシ共和国の
ミンスクから平成24年3月か
ら6月まで長野県立こども病
院に、小児医療の最新の医
療・技術や日本について学ぶ
ために研修に来ました。

小児科学は、1999年から2004年にミンスクにある
ベラルーシ州立大学で学んだ後、2009年11月から州
立の科学技術センターの大学院で学びました。

私の職歴は、2008年8月から12月までミンスクの
診療所で小児科医として、その後、科学技術センター
の科学研究部の母子医療、新生児分野の小児科医と
して勤務していました。

専攻分野は小児科ですが、他に神経科、新生児
科、免疫学も学びながら、国際会議に参加したり、医
学ジャーナルでの誌上発表も行ってきました。

私のこども病院の印象は、医師、看護師等の診
療のレベルは高いですし、最新の医療設備もあり

ますね。職員のみなさんは、どんな状況でも責任
感をもって仕事をしていらっしゃると思います。

日本の印象は、非常に魅力的な自然がありますし、
日本人は、とても礼儀正しいです。

また、食事は、新鮮でおいしいです。特に、寿司や
しゃぶしゃぶが大好きです。

本院での研修を生かして、ベラルーシの医療の向上
に役立てたいです。



職場での送別会

後期研修医の紹介

新生児科 医師 関 聡子



フランスのモンサンミッシェルにて

後期研修医として1月よりこども病院で研修を
始め、半年が過ぎました。私はNICUの研修から

のスタートでした。

こども病院のNICUでは長野県全域から、また時には
県外から具合の悪い、または早く小さく生まれた赤ちゃん
が集まってきます。一般病院にいと医者をやっている
てもほぼ出会うことのない珍しい疾患の赤ちゃんや、
なかなか診断のつかない赤ちゃんもいて、時には生まれ
て間もない小さな命が生死の瀬戸際にたたされるよ
うな緊迫した状況になることもありますし、治ること
のない病気を生れてくる赤ちゃんのご両親に厳しい
お話をしなければいけないこともあります。

それでも赤ちゃんはそれぞれみんな私たちに生命力
を見せつけてくれ、ミルクを飲み、ウンチを出して、欲求
をからだ全体で伝えようとしてくれ、満足すれば眠りに
つき、そしてどんどん成長していき、NICUはそんな赤
ちゃんたちのおかげで日々笑顔につつまれています。
お産というのは現代医学をもってしても母子ともに人生
の中で一番の命の危機を迎える時であり、また人生の

中で一番の感動の瞬間でもあり、そんなお産に数多く立会うことのできるNICUでは日々いろんなドラマがありますが、初めて泣いて、初めて目を開けて、初めてミルクを飲んで、初めてお風呂に入って・・・いろんな初めてに立ち会い幸せのおすそ分けをたくさんいただいています。

一方、NICUでは具合の悪い赤ちゃんが他の病院で生まれたときには保育器や呼吸器、必要な処置ができる機能を持ったこども病院の救急車でその病院までお迎えに行くことがよくありますが、こちらとしてはその具合の悪い赤ちゃんの原因を調べ、まず状態を安定させてから一刻も早く病院に戻って治療を開始しなければという、日々の仕事の中でも緊迫感のある一場面です。

ある時、赤ちゃんの搬送依頼で他院に向かい、ご両親に状態の説明をしてこども病院に搬送しますというお話をした際に「嫌だ」と言われたことがありました。

そのお母さんは生まれて間もない赤ちゃんを連れていかれるなんて身をさかれる思いだと気持ちを正直に話してくださり、とはいっても医療者として赤ちゃんのためを考え搬送が必要と判断しているので、それならやめましょうとも言わずに説明を重ねましたが、あのときのお母さんの発言は急にこども病院に入院が必要になってしまった赤ちゃんのご両親皆さんが持っている本心であり、残された方はどんなに心配しつらい思いを抱えているかということを変えて考えさせられた一言でもありました。

私たちはどんなに患者さんのことを考え、ご家族を気遣っているつもりでも、決して当事者になることはできず、嬉しいこともつらいことも全く同じ気持ちを共有することはできません。そのことを常に意識しながら、それでもこれから出会うたくさん子どもたちとご家族に少しでも安心と笑顔を取り戻してもらおうことができるように、日々研修をつんでいきたいと思えます。

ボランティアサークル(おはなしの会)



小道具を使ったおはなし(院内学級にて)

「おはなしの会」は長野県立こども病院ボランティアの中でも、最初に活動を開始した団体のひとつです。金曜日の10時から病棟をまわり、プレイルームやベットサイドで絵本の読み聞かせや手遊びなどをしていただいています。院内学級でおはなし会を行うグループもあり、4グループが週変わり毎週関わっていただいています。病棟ではこどもたちばかりでなく、ご家族も「おはなしが始まるのを楽しみに待っています。

3年前におはなしの会の方々が中心となり、「本と子どもの発達を考える会」を発足させ、活動の幅をどんどん広げています。支援を必要とする子どもたちや周囲への理解を深めるために本を通しての援助方法を熱心に研究しています。

毎週金曜日、おはなしが行われているお部屋では、笑顔やドキドキ顔、真剣な顔など、一時治療から離れたごく普通のかわいい表情とそれを見つめるご家族の温かいまなざしが伺えます。



絵本の読み聞かせ(病棟にて)

病棟紹介 外来

外来師長 林部 麻美

当院では、20診療科の外来診療を行っています。外来の看護師は常勤看護師と非常勤看護師で構成されています。外来看護を安全に効率よく機能させるために、平成22年度から外来案内・計測担当、中央採血室担当、検査担当、予定入院担当という4つの業務を独立させた「機能別看護」を導入しています。外来で働く看護師がお互いに思いやり、支えあいながら、責任をもって働き続けられる職場風土が根付くように、スタッフと一緒に努力しています。

また、昨年度から患者本人が病気を理解し、自立や社会性の発達が促せるように、長期フォローアップ体制の構築と成人移行期支援に取り組んでいます。キャリアオーバーの患者が成人病院に移行できない状況であり、小児病院側から発信して成人病院との協力体制を少しずつ構築する必要性を感じています。子ども達が将来困らないような関わりを小児医療に携わる者が意識していないといけないとしみじみ感じています。



看護師と窓口スタッフです

平成24年度新人看護師研修について

看護部キャリア開発室 西沢 博子



看護技術研修 気道確保の演習

平成22年度から新人看護職員の卒後研修が努力義務化されました。それに伴い、新人看護師教育体制・教育プログラムを新たに計画しました。昨年からは看護技術研修・ローテーション研修を開始し、本年度は1年のまとめとして「ナラティブ研修(心に残った看護体験)」を行います。みんな明るくいいきと研修を行っています。



新人フォローアップ研修でソフトバレー

病棟の野菜と花畑



「ほら見て」とキュウリを収穫

1階の病室は手作りの畑、2階と4階の病室はプランターが窓から見えます。病棟師長、保育士、庁務技師の方々が作りました。暑さ・節電対策の緑カーテン用やハロウィンカボチャ等の野菜、元気が出るひまわり等の

花が植えられています。植物の成長と飛んでくる鳥達や、子ども達が作った風車もあり、それらの様子を楽しみ癒されています。子ども達やご家族との会話もはずみます。先日りっぱなキュウリやナス、トマトが実りました。これからもたくさんきれいな花や美味しい野菜が実るのが楽しみです。緑カーテンの出来は如何に..。



野菜畑の様子

七夕まつりを開催しました

満天の星の夜・・・とはなりませんでしたが、7月6日(金)にこども病院南棟2階会議室で七夕まつりを開催しました。

子どもたちがそれぞれの願いを込めて描いた色とりどりの短冊を着飾った笹が会場を優しく彩る中、今日という日を楽しみにしていた多くの方が参加してくださいました。

急きょこども病院に遊びに来てくれた織姫と彦星のリアル夫婦漫才を幕間に、院内学級の子もたちによる息の合った四重奏や先生方の混声合唱をはじめ、本郷おはなしサークルによる読み聞かせを交えたパーブサートで、巨大ウズラの出現に前の席に座っていた男の子の「でっけえ鳥!!」と声を出して驚く姿に子どもたちやその家族、職員からも笑みがこぼれました。そして最後を飾ったのは、今年からこども病院でメ

ジャーデビュー(?)を果たした看護師たちによる院内バンド「ポーラベアーズ」フレッシュな力強い演奏が会場を一層盛り上げていました。



「ポーラベアーズ」によるバンド演奏

平成24年7月より、院内で**公衆無線LAN**がご利用できます



利用場所・利用時間

- (1) エントランスホール(薬局側の一部)
【午前8時30分～午後6時00分(休診日を除く)】
- (2) レストラン
【平日:午前7時30分～午後5時45分】
【休診日:午前8時30分～午後2時45分】
(利用は無料です)

長野県立こども病院 外来医師担当表

平成24年8月1日現在

	外来名	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
南棟外来	整形外科	藤岡 文夫 (AM)	高橋 淳 (PM) ¹	藤岡 文夫 加藤 博之	松原 光宏 (AM)	松原 光宏
	小児外科		岩出 珠幾 (AM) ² 好沢 克 (AM) 高見澤 滋 (PM)	高見澤 滋 (PM)	町田 水穂 (AM) 好沢 克 (PM)	町田 水穂 (AM) 岩出 珠幾 (PM)
	眼科	視能訓練 非常勤 ³	視能訓練	視能訓練	視能訓練 (AM) 北原 博 (7/5)	視能訓練 北澤 憲孝
	総合小児科	南 希成 笠井 正志 ⁴	樋口 司	南 希成 (AM) 樋口 司 (PM)	笠井 正志	樋口 司 (AM)
	血液腫瘍免疫科 <small>免疫・アレルギー・外来</small>	南雲 治夫			南雲 治夫	
	血液腫瘍免疫科 <small>血液・腫瘍外来</small>	塩原 正明	倉田 敬 (AM)	塩原 正明 倉田 敬		塩原 正明 (AM)
	血液腫瘍免疫科 <small>内分泌・代謝外来</small>		竹内 浩一		竹内 浩一	竹内 浩一 (AM)
	循環器科 <small>(内科・外科)</small>	小坂 由道 (AM) 坂本 貴彦 (AM) <small>(外科)</small>	安河内 聰 瀧間 浄宏 <small>(内科)</small>	坂本 貴彦 (AM) 原田 順和 (AM) 小坂 由道 (AM) 手術説明 (PM) <small>(外科)</small>	安河内 聰 田澤 星一 <small>(内科)</small>	瀧間 浄宏 田澤 星一 <small>(内科)</small>
リハビリテーション科					笛木 昇 (AM)	
北棟外来	脳神経外科	重田 裕明 宮入 洋祐	重田 裕明 宮入 洋祐 (PM)		重田 裕明 宮入 洋祐	
	泌尿器科 <small>皮膚・排泄ケア外来</small>		下記 ⁵			
	神経小児科	平林 伸一 ⁶ 福山 哲広	平林 伸一 ⁶ 福山 哲広 (PM) 奥野 慈雨 (AM)	平林 伸一 平野 悟	奥野 慈雨 (AM)	平林 伸一 福山 哲広
	小児外科					高見澤 滋 ⁷
	新生児科	中村 友彦 三代澤 幸秀	小久保 雅代	廣間 武彦	廣間 武彦	小久保 雅代
	形成外科	野口 昌彦 柴 将人 (AM) 杠 俊介 (PM)	安永 能周 ⁸	野口 昌彦 杠 俊介	野口 昌彦 (PM)	野口 昌彦 (PM) 藤田 研也 (PM) 杠 俊介 (PM)
	麻酔科	大畑 淳 (AM)				
	皮膚科			芦田 敦子 (AM)		
	精神科 <small>こころの診療科</small>				原田 謙 (PM) ⁹	
	遺伝科	古庄 知己 ¹⁰	西 恵理子	西 恵理子	西 恵理子 鳴海 洋子 (PM)	西 恵理子
	耳鼻咽喉科		下記 ¹¹		出浦 美智枝	
	循環器小児科 <small>胎児心臓外来</small>		松井 彦郎 (PM) 田澤 星一 (PM)		瀧間 浄宏 (PM)	安河内 聰 (AM)
	産科	吉田 志朗 (AM) 高木 紀美代 小松 篤史 (PM)	高木 紀美代 小松 篤史	吉田 志朗 高木 紀美代	吉田 志朗 小松 篤史	高木 紀美代 小松 篤史
	リハビリテーション科	笛木 昇 河野 千夏 ¹²	笛木 昇 河野 千夏 (AM)	笛木 昇	三澤 由佳 (AM) 原田 由紀子	河野 千夏

- 1 整形外科の高橋医師は第2週のみ診察となります。
- 2 小児外科の岩出医師は、第1、3、5週です。
- 3 8/6、8/20の診察日となります。
- 4 月曜日の笠井医師は、予防接種外来になります(午後のみ)
- 5 泌尿器科 午前 週によって、医師が異なります。
午後 皮膚・排泄ケア外来は、第1、5週で西澤医師の診察日となります。
- 6 月・火曜日の午後 平林医師は発達障害専門外来です。
- 7 第2・4週は午前・午後、第1・3・5週は午後のみ診察となります。
- 8 火曜日の安永医師は第4週の午前のみ診察となります。
- 9 精神科(こころの診療科)外来の初診は、受付しておりません。
- 10 遺伝科の古庄医師は午前11時からの診察となります。
- 11 耳鼻咽喉科 午後 週によって、医師が異なります。
- 12 リハビリテーション科の河野医師は午前11時までの診察となります。

診察時間：午前9時～午後4時
休診日：土・日曜日、祝祭日、年末年始
受診には、原則として予約が必要です。

予約専用電話

0263-73-5300